

SSKP 自立生活センター・小平 通信

生活を豊かに彩る「ゆにーく ゆあ らいふ！」

ゆにーく your らいふ

10月号



☆「第7期自立生活プログラム・打ち上げ」より

～目次～

- P. 2 第7期長期自立生活プログラム報告
- P. 3 自立生活プログラムを受講して
- P. 5 “私の思い”
- P. 6 介助者紹介！
- P. 9 “自立生活における訪問看護の利用⑦”
- P. 10 今の自分・むかしの自分～その②～
- P. 11 なぜ私は施設から出る決心をしたか？～その②～
- P. 13 自立生活センター・小平 野球部紹介
- P. 14 ピア・カウンセリング公開、短期講座のお知らせ
- P. 15 平成13年8月、9月活動報告
- P. 17 会員募集／編集後記／CIL小平地図
- P. 18 サービスのご案内

第7期自立生活プログラム報告

涼しいような、暑いような、体に忙しい日々が続いていますが、みなさんはどんな秋をお過ごしですか？

さて、自立生活センター・小平では、5月17日から7月5日まで、全8回で第7期自立生活プログラムを開催しました。

- 第一回 5月17日 自己紹介 目標設定 障害ってナニ？
- 第二回 5月24日 介助者との関係
- 第三回 5月31日 自立生活ってナニ？Part 1
- 第四回 6月 7日 フィールドトリップ(池袋サンシャイン60)
- 第五回 6月14日 家族との関係
- 第六回 6月20日 調理実習(肉団子のスープ、キャベツのサラダ)
- 第七回 6月28日 自立生活ってナニ？Part 2 フリートーク
- 第八回 7月 5日 感想 反省 打ち上げ

以上の内容で、受講生5名、研修生2名を向かえ、リーダー4名の計11人で行いました。今回のプログラムも、前回と同様自立前に学ぶ基本的なことを中心として行いましたが、いつもと違うのは10回コースが、8回コースになったということです。そんな中、受講された方々は、個性豊かで、お話好きな方が多く、近年まれにみる内容の濃いプログラムになりました。しかし、もっと話したかった方、熱い思いを語りたかった方には、時間が足りなかったことでしょうか。本当に、申し訳なく思っています。現に、何度かリーダーを勤めさせていただいた私自身も、不完全燃焼で終わってしまった回も何度か有り、もう少し皆さんとの時間を共有したかったなあと思いました。これは、次回に向けての反省点の一つですね。まっ、それでも“終わり良ければ全て良し！”とまでは言いませんが、皆さんそれぞれ(リーダーも含め)何かを掴み、人としてよりいっそう成長して頂けたのではないかと思われる笑顔で、美味しそうに打ち上げのケーキを食べていたのが、心に残っています。

下準備から始まり、報告、反省をふまえて、皆で作りに上げた“自立生活プログラム”。新人の障害者職員から、思わず、『裏方って大変ですね…』という言葉がこぼれたりもしましたが、受講生の笑顔のパワーの源にして、力を合わせてよりいっそう良いプログラムを提供できればと思っています。今後とも、自立生活センター・小平の暖かい自立生活プログラムをどうぞヨロシク！！

(小泉 信治)

受講生の感想

～第7期自立生活プログラムより～

今回の、第7期自立生活プログラムを受講された中山喜美子さんに、プログラムの感想を書いていただきました。

I L プログラムを受講して

中山 喜美子

皆さんお元気でお過ごしですか。

お会いしていないかたには始めましてですね。

いつかお会いしましょう。

人様に読んでいただける文章は書けないのでけして書いてはいけないと、ひいじいちゃんの遺言だったのですが、はずかしながら書きました。不明のところは理解して読んで下さい。

私は中山喜美子 昭和22年生まれです。ただいま《恋人募集中》、とは言っても、漫才の相方さんなんですよ。

長い間、施設で生活していますのでおもしろい話しをしていることが楽しい事にもなります。入所者同士、協力する、助け合う、いろいろ勉強させてもらいました。

今度は地域で暮らす事を考えました。なかなかその術が判らず悩んでいましたが、今事務所でお仕事をされている親愛なる「ケイ」竹島さんにお誘いをうけ、I L プログラムで勉強することになりました。

初めは何がなんだか判りませんでした。こんどは気を引きしめて再度、五月からの8回コースI L プログラムを受講させていただきました。先輩の親切なアドバイスで何とか8回こなす事ができ感謝しています。

フィールドトリップ等の集合の場合、介護者との連絡ができるようにするとよかったです。

雨具は持参しなければいけなかったと反省しています。調理実習が特に楽しかったし、前に作った時より抜群にうまく出来上がりました。とてもおいしかったので皆んなに食べさせてあげたかったです。介護者への指示のしかたも、制度のこともだいぶ判ってきました。私はこまかいことが気になりすぎ、良く言えば繊細なのが、かえってマイナスのところなのですがやさしい人なんですよ。忠実すぎないようにします。

自立生活をする様になったら介護者や地域の人と仲良くしたいと思います。地域活動に参加したりできれば、事務所でのイベントの企画係をさせて下さい。

頑張ります。応援してください。

◎ クイズ

私の年齢はいくつ？

◎ ヒント

この文章を読むとわかります。 正解のかた、事務所のクーラーで涼んでね。



☆今年の4月に、自立生活をスタートされた松田春廣さんが、その胸の内を語って下さいました。

～私の思い～

松田春廣

療護園から今年で足かけ二十六年になりました。療護園にいるときは、やなことばかりありました。職員とけんかばかりしていた。いいときはあんまりなかった。いいときは、職員と園生とで旅行に行ったことだけです

おふくろが死んでしまい、しょうがないから、兄弟たちに世話になっていた。だから、しょうがないから療護園に行った。本当は入りたくなかったんだけど、兄弟たちはけんかばかりして、私のことを何だかんだいってこまりました。

それで、「青い芝の会」に入ってから、今度は「蜂の会」に入り、二十五年、蜂の会で自立生活の研究をしてきた。自立生活は大変で困りました。それが、だんだんとわかってきて、何とか努力してこれからの生活をやって行こうと思っている。

自立生活センターに行って、川元さんをお願いしました。これからは、一人で生活をやらなくちゃならない。体のことを考えてやっていかなきゃならない。栄養のことを考えて、体を悪くしないように努力する。夜は早く寝て、朝早く起き、お茶を飲んでからごはんを食ベトイレをして、それが私の健康法だ。このごろ、だんだんと体が弱くなってきた。朝起きる時間が少しおそくなってきた。それは、年のせいです。私はこれからも長生きしたいと思います。それは大変なことです。私は、いろいろと考えてやって行きたいと思います。

私は、一人で生活するのはあきました。何とかして結婚したいと思います。だけど、大変じゃないかなあと思います。本当は、子供一人ぐらいほしいなあと思っています。それは、私が死んだとき、籍がなくなるから、子供が一人ほしいなあと思う。男の子がほしいなあと思う。子供を幼稚園から大学まであがらせるのは大変じゃないかと思っています。私はそういうことを考えています。だけど私は年とっているから、子供のことは考えていません。私は、一人で暮らすことがさみしくなった。今さら子供のことは考えないほうがいいと思います。ただ、さみしいなあと思います。

私は、これから明るい生活をやって行きたい。何とかして働きたいと思います。これからも障害者の運動をやって行きたいと思います。障害者を施設に入れることは反対していかなくちゃならない。障害が軽い人は出たほうがいい。ただ、お金の問題があるから、そこから辺を考えて出たほうがいい。

それから、高齢者の問題がある。高齢者はだんだんと増えてきている。職員が高齢化して、アシや腰が悪くなって、だんだん働けなくなっている。それから、居住者もだんだんと高齢化している。死んでく人が多くなっている。それは高齢化しているから、しょうがないんじゃないかな。体がだんだんと悪くなっていく。それは仕方ないんじゃないかなあ。私は明るい希望を持って療護園から出てきました。私も死んでくことはわかっている。だけど、それは自然だからしょうがない。私は、そういうことを考えて、園から出てきました。



私は、明るい希望を持って、長く生きていきます。それが私の考え方です。



介助者紹介!



今回からスタートするこのコーナーでは、CIL・小平の介助者の方々に、自己紹介を兼ねて、何でも自由に書いて頂こうと考えています。これまでは、新しく介護者になった方をお願いするはありましたが、今後はシリーズ化して、色々な方の声を載せていきたいと思ひます。

介助者同士、なかなかお互いに顔を合わせる機会も少ない中で、他の人がどのように考へているかを知ることは、介助の中で生かせることも多いのでは…、そしてまた、利用者の方にも、ご自分の介助に入っていない介助者のことも知っていただければ…、そんな思ひで企画しました。どうぞ今後もご期待下さい。

今月の介助者は、お二方登場します。

…まずこの方、成相好隆さんです。

はや3年、と知っているともう5年... いったい何が? 勤続年数であります。勤続年数、重い言葉。それなりの中身が供わってればいいのだけれど... と思う日々。自分の場合は水素かヘリウムぐらいの中身の軽さか! そんな軽い中身でも自分なりに何かみつかったのか考えてみよう。

実際は違う。だから何が? この仕事をやり始める3年前は、TVで介護の仕事を見ては、やってみたい、興味があるという思いを感じていたけれど、実際に現場に立って仕事という形でやってみると、利用者の方も介護者の方もスタッフも表面下にいろいろな苦労があるんだと見えてきた訳なのです。どんな仕事についても言えるのかもしれないけれど、見るのとやるのとは違う→実際は違う、という発見が手に入りました。(それにしても小学生レベルの発見でしたね)

この仕事を続けてこれたのも利用者の方やスタッフの方の多大なる協力があるからこそとつくづく思っていますし、今現場で仕事ができるのもありがたい事だと感じています。

しかしいったい何故だろう? 今までいろいろ長続きしなかった仕事が多かったのにこの仕事は長く続けられるなんて... やっぱり自分にあっていると言う事なんのでしょうか。どうでしょう...

(一介護者の思っていることを羅列しただけなので、考えの相違、憤怒の対象、悪意の集中となりましたら深くお詫びいたします)



続いては、八隅喜一郎さんです。

この仕事を始めるまで、私は個人的にいわゆる障害者の方と接したことは、ほとんど皆無でした。そんな自分が介護に入るようになって、はや半年が過ぎようとしています。これが何かを書きうるほど長いのか短いのかはわかりませんが、今の時点で思うことをここで書きたいと思います。

私が介護に入っている利用者さんは、脳性麻痺(CP)の障害の方です。CPの方を街角で見かけることは、私の住んでいる国立市では意外なことではなかったのですが、いざ始

ですが、いざ始めて接する時に思ったことは、「この人とともにコミュニケーションができるのだろうか」ということでした。思うに、障害者を傍観者として生活をしてきた人間は、その外見だけに注意を払うことでその場をやり過ごしてしまいます。私もご多分に漏れずそうだったのでしょう。CPのような緊張が激しい障害者を見ると、そのコミュニケーションのあり方にまで漠然と障害を当てはめてしまうのです。しかし幸いなことにその不安は、利用者さんと出会ってまもなく解消されました。私はその不安が解消された場面を今でもよく覚えています。

私の利用者さんは施設から出て自立生活を始められる方でした。私の介護の初日は、その利用者さんを施設から車で新居に送るという、まさに利用者さんの自立の初日と重なっていました。利用者さんを乗せた車は小平の自立生活センターに立ち寄り、車中に私と利用者さんを二人残してしばらく再出発を待っていた時のことです。なにを話せばいいかわからず新居に向かう車の中、利用者さんの隣に座り、私は窓の外に溢れる春の穏やかな陽射しを眺めていました。つけっぱなしにしたラジオからはDJのとりとめのない話し声が流れています。そのDJが雑学めいたことを話した時です。二人が同時に「ほお～」と関心した声を出したのです。そして利用者さんは私に向かって「知らなかった」と言われました。もう今ではあのDJがなにを話したのかは覚えていません。でもこの時、私は妙に安堵したことをよく覚えています。私は「ああ、きっと大丈夫だ」とその時始めて思いました。

まだ確かにはわかりませんが、介護に必要なのはこういった感覚なのではないか、と思う時があります。確かに技術的なことは必要です。そのために利用者さんの障害をよく知り、物理的に可能なことをそつなくこなすことは大事なことでしょう。

しかし、フトしたことで共感し合える感受性は、介護する人間とされる人間にとっても関係を維持するうえでとても大事なことのように思います。言葉を介したコミュニケーション、あるいは身体を介したコミュニケーション、いずれにしても人は共通する物差しをもって自分の意思を伝達し、人と関わる生き物です。しかし私たちは日常でこういったコミュニケーションが挫折し、誤解され、といったことをよく経験します。これは健常者と障害者といった区別なく味わうことだと思えます。こういったことを乗り越えて関係を維持していく力はどこにあるのだろうか、そういうことを考えていくと私は「共感」といった言葉に思い当たります。それは日常においては些細な次元に現れる現象なのかもしれません。しかしそういったことを意識的に摘み取れることがおそらく人間関係を維持する上で大事なことなのではないか、そう思うのです。だから陳腐なようですが、介護もやはり人間関係である、ということで、それを可能にする基本というか基盤は、どの人間関係にも共通して必要なものなのではないか、そんな気がします。抽象的ではありますが、以上が今の時点で、介護に入って私が考えることです。

“自立生活における訪問介護の利用その⑦”

初めは1日の酸素の状態を調べて、どの機械をどの程度の設定で使用するのかを決定しました。次に実際に機械を使って慣れる段階に入りました。使いこなせるようになって退院という流れでした。もちろん訪問看護ステーションとの連携もとれるようにする必要もありました。

酸素濃度は夜間には時々80代まで落ち込むことがあり、朝方にかなり負担がかかっていることが分かりました。ちなみに健康な人は97~98くらいです。80代になるのは眠ってる間なので自覚はないのですが、もし起きている状態で85とかいうことになると苦しくてどうしようもないです。息が苦しいとほんとに水で溺れているような感じです。

しかし、昼間はほとんど問題なく95前後に保たれていました。従って夜間に人工呼吸器を導入することが決まりました。

機械の選定については従量式か従圧式かということでしたが、使ってみて使いやすかった従圧式にしました。一定の圧力で空気を送り込むタイプのものです。もちろん鼻マスク式です。機械は思ったよりも小さいなという印象でした。人工呼吸器といっても手軽に持ち運べるのが意外でした。操作は複雑な設定をするのは医者ですが日頃は簡単に使うことができます。使用に関しては医者や看護婦に説明をしてもらえました。割と違和感が無くスムーズに使えるようになりました。問題があったのはマスク自体の方でした。鼻から空気を入れるわけですが、空気が漏れないようにするために密着させます。あたり方によっては傷が付いたりします。また、マスクをつけたまま眠るのは少し難しい人が多いかもしれません。かなり違和感があります。

使い方を練習しながら機械の圧力の調整をしました。1日の酸素の状態をモニターしながら数値を決めました。入院期間は1ヶ月でした。機械を使い始めて呼吸の苦しさがなくなりました。夜の苦しさがなくなってほんとに楽になりました。もう少し早く使い始められなかったかなとも思いました。

機械をつけて眠るのになれてきて消毒の仕方などをマスターした頃に退院することになりました。在宅では訪問看護ステーションのサポートを受けることとなります。人工呼吸器は回路とフィルターの交換が必要ですが、それは訪問看護の方でしてもらえることになりました。退院前に担当の看護婦さんに来てもらい病院側の説明を受けてもらいました。在宅で人工呼吸器を使用することはできても、日頃の管理となると不安な部分もあるので訪問看護に来てもらってよかったなと思いました。病院と訪問看護が連携することで入院の期間が短くなります。在宅で療養できるからです。利用すべき社会資源だと思います。

(黒田 良孝)

今の自分・むがしの自分～その②～

みなさん、こんにちは。今回は、“病人と障害者の違い”について私なりに思うことを書こうと思います。

病人と障害者、一般的な社会の目からしたら、両者に大した違いはないのかも知れませんが、また『両者の違いを明確にしろ』と言われた場合、胸を張ってこうだと言える確証もありません。しかし、私の短い人生のなかで、両方を経験してきて、“ここが違うのでは”と私なりに言えることは、お話しできます。

まず病人についてですが、2年半前までの私の生き方はこうでした。前にも話しましたが、私は2歳の頃から19年とちょっと病院に限りなく近い療養施設(治療目的で入退院される方がほとんどで、長期入所者は少なかったため)に入所していました。そのころの私の状況は、他の患者さんに比べて、比較的障害が軽かったため(とは言っても24時間常時介護は必要です)ナースステーションからは一番遠い部屋で生活を送っていました。物心着く前から、そこで暮らしていた私は、知らず知らずのうちに“自己主張”をすることを忘れていました。と言うよりは、許されていなかったのです。管理された集団生活から頭の飛び出ることの無いように、いかに職員の機嫌を取り、空気のような存在でいることで一生懸命でした。それは、小さい頃から施設で生きていくために、私が培ってきた生きる術なのです。“自己主張=わがまま”とされてしまうこの世界では、“自己主張”をすることにより、嫌われたり、乱雑にされたりと、損をすることが大半でしたので、仕方がないことだったのです(まあ、中にはこの“自己主張”に付き合ってくれる方も居ましたが、はっきり言ってごく少数でした)。つまり、病人とは管理され、自分を殺し“自己主張”をせず、ただ沢山居る人の中の一人になってしまっている人のことを言うのだと、私は考えます。しかし、まだ自分を殺していることに気づいている人は良いと思います。それさえも忘れ、誰かに与えられた生活が心地よくなってしまっている人は、本当の意味での病人ではないのかなあとと思います。

さて、当センターとの関わりをきっかけに、“管理された社会”から飛び出せた私は、障害という“個性”を持った一人の人間になるチャンスをもたらしました。そう、チャンスなのです。いくら、“管理された社会”から解放され、自由を手に入れたからと言って、“自己主張”する事を忘れ、誰かに与えられた生活を送っているようでは、住む場所が変わっただけの病人としか私は思えません。

自立を始めて2年半経ち、生活を送る上での全てにおいて自己管理をし、自分で決めて、生きてきました。せつかくもらったチャンスを、無駄にするのはもったいないですからね。なんて言ったって、人生は、1度しかないんですから…。

と言うことで、私の考える障害者とは、“自己主張”そして“自己管理”をし、自分で自分の人生を切り開いていける人と言うのだと考えます。これは、一般の目から見たら当たり前なのかも知れませんが、しかし、その当たり前の生活さえ許されない病人から、障害者になれた私は、今とても嬉しく思っています。

(小泉 信治)



なぜ私は施設から出る決心をしたか？その②

1999年の1月か2月頃、花小金井にある「自立生活センター・小平」の事務所を訪ねて代表の川元さんに自立生活についての相談をしたのが自立生活センター小平との始まりでした。その時に言われたのは、「準備のための貯金をすること(アパートの費用と生活用品のための)とILプログラムを受けてほしい」ということでした。そこで5月の中旬から10回のILプログラムを受けました。秋には3泊4日の自立体験プログラムを受け、年が変わって2000年、予定でしたら2月に最終的な4回のILプログラムを受ける予定でしたが風邪をひいてしまい3月の末から4月にかけて事務所に通って受けました。

その間荷物をまとめたり、亡くなった母を説得したりで大変でした。それと平行して川元さんは三鷹市と24時間介護の交渉を始められていました。私もルーテル神大で勉強したかったので、私の希望通りに三鷹でアパートをさがす事になりました。

私の担当として事務局長の黒田さんとヘルパーの担当として佐藤草作さん(以後は佐藤さんと書きます)それにヘルパーのコーディネーターとして岡村さんが決まりました。

5月8日の月曜日から佐藤さんともう一人の3人でアパート探しを始めました。不動産屋を約2ヵ月半の間に30件位回りましたが、多くの所は障害者だというだけで話も聞いてもらえませんでした。毎週1回か2回不動産屋めぐりを炎天下の中でしました。なかには、話は聞いてくれて探しておくからと言ってくれる所も何軒かありました。しかし、なかなか返事はきませんでした。

一番腹が立ったのは手頃なアパートが見つかったので中を見せてもらい、案内してくれた不動産屋に大家へ電話をしてもらったところ、始めは貸してもよさそうな話だったけれど、私とそのアパートの近所の散歩をしたせいかどうかはわかりませんが、そのアパートの近所の人から大家へ「障害者に貸すな」と言う電話があったそうです。だからそのアパートも結局駄目になりました。

一体何を根拠に、障害者が近くに住むのが不利益なのかわかりません。確かに障害者一人で住もうとすれば周りの人からは危ないと思われれます。でも普通の障害者じゃない人でも事故を(火事など)起こすケースは一杯あります。障害者=危険と言う感覚には私は断固抗議したいと思います。障害者だって立派に一人で暮らしている人たちもいます、まして私の場合は24時間介護者がつきます。経済的にも家賃を滞納することもまず無いでしょう(社会が大きく変化しない限り)。その電話をかけた人はどういう意味でかけたのか会って聞いてみたいと思います。

私はアパート探しの経験から、まだまだ日本は遅れているなと思い、改めてこれから私たち障害者が頑張って運動していかなければならないと思います。

やっと7月の中旬佐藤さんから貸してもらえるアパートが見つかったと言う連絡がありました。それに川元さんからは三鷹市が24時間介護者派遣を認めたとする連絡もありました。7月の半ばアパートを見せてもらいトイレのドアのところが狭かったので技術的に広げられるかを見てもらい、大丈夫だと言うことで改造しても良いという大家さんの許可のもと不動産屋へ行って契約しました。

7月25日清瀬療護園を退所し1日かけて清瀬市役所で転出の手続き、東久留米市役所で措置解除、三鷹市役所で転入の手続きをしました。転入と同時に生活保護等さまざまな手続きをして晴れて自立生活の第一歩が始まりました。

アパートへ引越してきて、何も無かったのでまず買い物に行きました。当面の問題は夜の灯り、最低の生活必需品を買い求めて1日目は終わりました。とにかく生活らしくなったのは1週間から10日たってからでした。夏の暑い時だったので大変でした。

以上が私の自立生活までのあらましです。次回は自立してからのさまざまな出来事を書きたいと思います。乞うご期待

(山科 賢一)

こんなこともやっています…

はじめまして、CIL・小平野球チームです！

木の葉が色づき、朝晩が涼しくなり、海の幸山の幸が豊富に採れる…。そうです、秋の到来です！食欲の秋、読書の秋、睡眠の秋。いろいろな秋がありますが、みなさん、「スポーツの秋」なんてのもあるんですね。遥か彼方アメリカでは、大リーグでの日本人選手の大活躍。かたや国内ではホームランの日本記録が更新されようとしている…。そうなんです、時代は確実に「野球に歩み寄ってきている」（と思いたい）のです！！

こんな時代に、自立生活センター・小平でも野球チームが結成されました。実は去年の11月から活動を始めており、すでに年齢・性別・平熱・経験・人種・宗教・趣味・毛髪量などを問わない様々な人達が集まって和気あいあいと野球を楽しんでいます。もちろん参加は自由、お酒の席だけ一寸参加、なんてこともアリです。さらに、とてもハイセンスなユニフォーム計画などもあります！

失礼、チーム名をご紹介していませんでしたね。

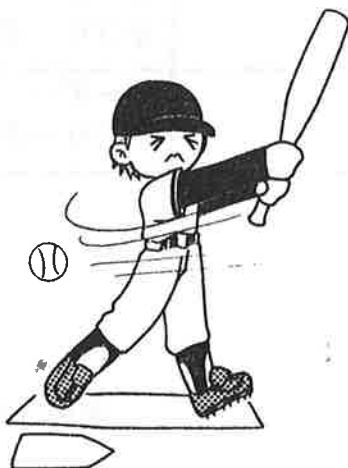
インディーズ

です

この名前は、「自立生活センター」の英語名、“Center for INDEPENDENT Living”にちなんで名付けられました。

仕事の都合上、なかなか全員が一堂に集まるということは難しいですが、月1～2回のペースで練習、そして試合なども行っていきたくと考えています。こんなCIL小平野球チーム「インディーズ」に、応援をよろしくお願いします！

なお、興味を持たれた方は、CIL小平内、部長・細川、副部長・佐藤までご連絡ください。



(佐藤 草作)

ピア・カウンセリング公開・短期講座のご案内

十月になり、暑さも和らぎ過しやすくなりました。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて自立生活センター・小平では、昨年に引き続き恒例となったピア・カウンセリング公開・短期講座を開催致します。

ピア・カウンセリングを知らないあなた！また、もっと極めたいと思っている方、是非この講座に参加しませんか。

日程等は下記を御覧になって当センターにお申し込み下さい。

記

期間 : 2001年11月10日(土)、14日(水)、21日(水)、28日(水)

時間 : 午後13時～17時

場所 : 美園地域センター、花小金井南公民館、他

対象 : 第1回は公開講座なので健常者の方でもOKです。

参加費 : 4000円(公開講座のみの方は、1000円)

リーダー : 中原えみ子氏(ヒューマンケア協会 事務局長・ピア・カウンセラー)

山上昌子氏(全国自立生活センター協議会所属ピア・カウンセラー)

サブリーダー : 大淵由理子・竹島けい子

内容

11/10 (土)	第1回	ピア・カウンセリングってなあに ピア・カウンセリングに出会った私	リーダー : 中原 サブリーダー : 竹島
11/14 (水)	第2回	近げきあおう New&Goods	リーダー : 山上 サブリーダー : 竹島
11/21 (水)	第3回	どんな気持ち New&Goods	リーダー : 山上 サブリーダー : 大淵
11/28 (水)	第4回	障害について アプリケーション	リーダー : 山上 サブリーダー : 大淵

定員 : 第1回は20名、第2回より10名

申し込み、問い合わせ先 : 自立生活センター・小平

担当 : 大淵・竹島

《CIL・小平 活動報告：2001年8月～9月》

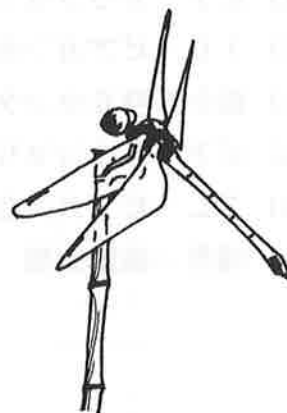
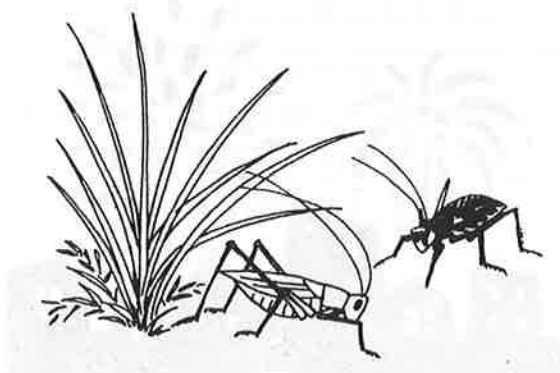
2001年8月

- 1日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 2日(木) IL・ピアカン会議
- 3日(金) 「ゆにーく yourらいふ」通信会議 報告・検討会議
「ゆにーく yourらいふ」通信発行
- 8日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 9日(木) IL・ピアカン会議
- 10日(金) 事務局会議 報告・検討会議
- 13日(月) 小平福祉園訪問(川元・小泉・竹島・岡村)
- 14日(火) IL・ピアカン会議
- 15日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 16日(木) ピアサポート(竹島)
- 17日(金) 報告・検討会議
- 21日(火) 親ピアサポートグループ(竹島)
- 22日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 23日(木) IL・ピアカン会議
- 25日(土) 街かど自立センター設立10周年記念パーティー(川元、小泉)
- 29日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 30日(木) IL・ピアカン会議
- 31日(金) 報告・検討会議



2001年9月

- 5日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 7日(金) 介助者面接 報告・検討会議
- 8日(土) 介助者面接
- 10日(月)
 ～11日(火) ILPリーダーズワークショップ(大淵)
- 12日(水) 介助者研修(実技)
- 13日(木) IL・ピアカン会議
- 14日(金) 事務局会議 報告・検討会議
- 17日(月) 介助者研修(講義)
- 19日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『HANDS世田谷』(山崎)
- 20日(木) IL・ピアカン会議
- 21日(金) 報告・検討会議
- 22日(土) 市民版・障害者プランをつくろう集会／主催『市民版・小平障害者プランを作る会』(小泉)
- 27日(木) 小平市：知的障害者介護保障交渉(馬場)
- 28日(金) 報告・検討会議
- 29日(土) CIL・小平 親睦パーベキュー



会員募集のお知らせ

ならびに平成13年度会費納入のお願い

各サービスを利用したい方、スタッフとしてサービスを提供したい方は、会員制になっておりますので下記の要領で会員になる手続きをして下さい。

また、すでに会員になられている方で、今年度の会費をまだお支払い頂いていない方は、支給納入頂きますようよろしくお願いいたします。

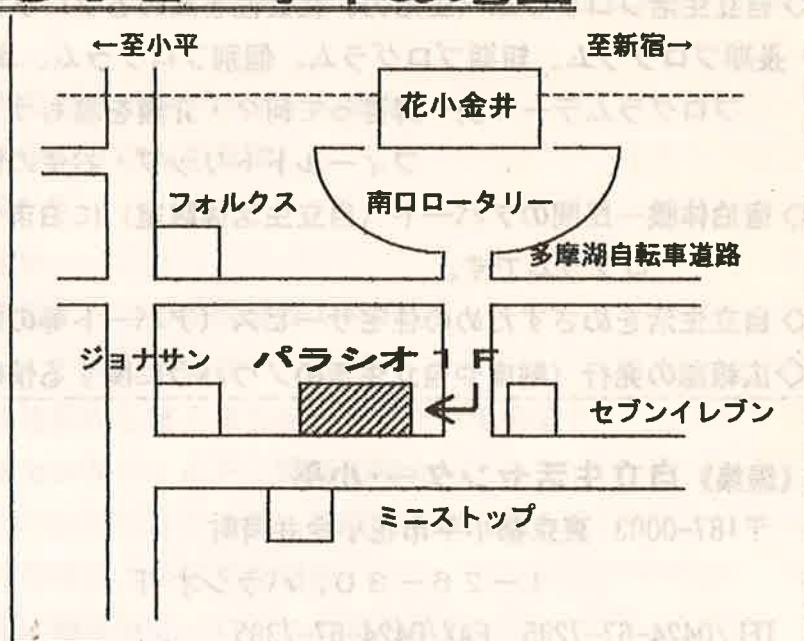
※会員は以下の2種類です

1. 正会員	2. 賛助会員
小平市とその周辺にお住まいで、サービスを利用、または提供される方	「自立生活センター・小平」の趣旨に賛同し、資金的援助をしてくださる方
会費：4,200円(／年)	会費：2,000円(／年)
振込先 三井住友銀行(前さくら銀行)、花小金井支店 普通 6487824 自立生活センター小平	

編集後記

あっという間に夏が終わり、もう秋真っ盛りですね。みなさんは楽しい夏を過ごされましたか？先日、台風が過ぎた後の夕日がとても綺麗で感動しました。空気中の、チリやほこりを持っていったお陰でしょうね。とても鮮やかな、紅色でしたよ。皆さんも、台風明けにはご注意を！ (副編集長 小泉)

CIL・小平の地図



サービスのご案内

24時間、365日介助派遣サービス

近隣の8市にまたがって身体障害者、知的障害者、精神障害者にサービスを提供しています。(初めてサービスを利用する場合は、利用規約等について事前に説明する場を設けさせていただきます。)

・ 介助内容

◇家事一般 ◇食事 ◇排泄 ◇入浴 ◇着替え ◇体位交換 ◇外出

・ 利用料金

…その他必要な介護をいたします

平日 9:00~17:00 ￥1,250/時

17:00~ 9:00 ￥1,450/時

休日 終日 ￥1,450/時

(上記いずれも1時間あたり50円の事務経費が含まれています)

障害者生活支援事業サービス

◇介助制度、手当、住宅改造、生活保護などの制度利用の申請のサポートならびに生活に関わるあらゆる相談をお受けします。

・ 電話相談：365日、9時~22時

・ 面接相談：月~金、10時~17時

◇ピア・カウンセリング(集中講座、個別)

◇自立生活プログラム(生活力、社会性を高めるプログラム)

長期プログラム、短期プログラム、個別プログラム、単発プログラム

プログラムテーマ例…障害って何?・介護を頼もう(介護者との関係)・制度学習
; フィールドトリップ・お金の管理・調理実習 …など

◇宿泊体験—民間のアパート(自立生活体験室)に泊まって、自立生活を体験するプログラムです。

◇自立生活をめざすための住宅サービス(アパート等の住居の確保)

◇広報誌の発行(制度や自立生活のノウハウに関する情報提供、情報交換)

《編集》自立生活センター・小平

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町

1-26-30、パラシオ1F

TEL/0424-67-7235、FAX/0424-67-7335

E-MAIL: cilkoizumi@hotmail.com

《発行所》

障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧 6-26-21

(定価 100円)